

チーム名	・チーム防災・減災	【取組概要】 防災目的で使われているハザードマップに、水害発生時にリアルタイムで被災状況を反映させて、被災者に自分の置かれている現状を把握させ、手遅れになる前に早期避難を促すリアルタイムハザードマップを作成する。その中では、事前に登録してもらった情報から割り振った避難所へ、実際の被災状況から通行の可否を判別して、安全が確認できた道を通るルート案内ができるようになっている。加えて、いざという時に使いこなせるように、平常時から自宅や学校、職場で被災した場合を想定して、個々に合わせた避難訓練をアプリを用いて実施したり、高齢者や児童を対象に、AR・VRを通して実際に想定される被災状況を体感してもらったりすることで、防災意識の向上を図る。
メンバー	・氏名（所属大学・学部） ・野崎琉加 ・矢野有希子 ・山本莉子 ・(法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 社会空間情報研究室)	

事前準備



自治体



- ・ アプリをインストール
- ・ 個人の状況（車椅子やベビーカーの使用、ペット同伴など）を自治体に登録

- ・ 自治体は需要に合わせて避難所を整備

平常時

7 26 25 24 23 22 21

① 避難訓練

ロールプレイング形式でリアリティがあり、より質の高い訓練が実現

② AR・VRを使った疑似体験

実際の避難通路上に被災時の水深を反映。ARやVRで体験してもらい、危機意識につなげる

災害時



- ・ 公共・民間・一般からの情報で越水状況や浸水範囲を解析・可視化
- ・ 避難所への安全なルート案内
- ・ 避難所の収容状況を把握・管理

- ・ 成果や補足説明等
- ・ 近年被害が甚大化している水害について取り扱った。
- ・ デジタルデバイドのために情報を得られない被災者が出ないように、地図・音声・テキストなど複数のメディアで配信することで、老若男女問わず、広く人々に利用されることを目指す。